

令和7年度 太子町 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：1名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・認知症の人やその家族の相談や、医療や介護等関係機関へのつなぎ
 - ・支援を行う関係者が、情報交換や支援事例の検討などを行う連絡会議の設置
 - ・地元医師会や認知症サポート医とのネットワークの形成
 - ・認知症ケアパスの作成・普及
 - ・認知症の人と家族を支える地域の人材やサービス拠点についての情報収集
 - ・在宅介護サービス従事者への認知症研修の実施

報告者氏名：澤井 佐和子
(町担当及び認知症地域支援推進員)

太子町 認知症施策全体図

| | |
|----------------------------|--|
| <p>認知症の早期発見と早期対応に向けた支援</p> | <ul style="list-style-type: none">・認知症予防教室・出前講座・もの忘れ相談 月1回、公認心理士による検査と相談を実施・脳体カトレーナーCogEvo(コグエボ)測定会 健康チェック相談会や出前講座で実施・認知症初期集中支援事業 |
| <p>地域における見守りや支援</p> | <ul style="list-style-type: none">・認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座・チームオレンジ太子・介護マーク名札の交付・希望をかなえるヘルプカードの普及・認知症カフェ・オレンジ広場（認知症の方と家族の集い） |
| <p>道迷いなど見守り支援</p> | <ul style="list-style-type: none">・高齢者等見守りネットワーク事業・あんしん見守りキーホルダー登録事業・高齢者等徘徊SOSネットワーク事業・GPS専用端末機初期費用助成事業 |

標題 総合的な認知症施策の推進

令和7年度の活動経過

● 認知症予防・早期発見・早期対応の取組

認知症予防教室の開催 脳体カトレーナー-CogEvo測定会



クイズに回答することで5種類の認知機能を測定。
MCIの早期発見と対応を知る機会に！



● 認知症の正しい理解を深めるための普及啓発

働き盛り世代の認知症理解促進事業の開催

企業で従業員の健康管理に携わる職員や認知症に関心のある働き世代を対象に実施。

VR認知症体験やMCI(軽度認知障害)の講義、県や町の認知症施策説明を実施。「最新の情報を知ることができた」と「関係機関と顔合わせできた」と、若い世代に理解を深める有意義な機会となった。



●本人の声を起点とした地域づくり

チームオレンジと共に本人ミーティングや認知症カフェに出向き、認知症の人や家族等と意見交換しあうことで、新しい認知症観を持った地域づくりの認識を共有した。



認知症になっても周りの手助けがあれば、今までどおりの生活ができる。



認知症になっても安心してこの町で暮らしていけるようにしよう。



実施の効果及び課題

■実施の効果と課題

認知症予防教室を開催し、MCI(軽度認知障害)の理解とその対応、cogevo(コグエボ)を活用した脳体力測定で、誰もがなりうる認知症にそなえる必要性を周知した。

共生社会をつくる認知症カフェを2か所開設した。認知症の人やその家族が地域の人や専門家から相互に情報を共有し、お互いを理解し合う場になった。

■今後の取組み

本人ミーティングや認知症カフェなど地域における様々な機会を捉え、認知症の人やその家族、介護者と出会い、新しい認知症観を持った視点で、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指した認知症施策推進計画の立案を行っていく。

最後に・・・

認知症共生社会の実現に向けて、ロバ隊長を先頭に、ゆっくり、その歩みを進める。